

## 『今、なぜ「活用力の育成」なのか』について

平成27年(2015年)、市内教育研究所の所報で、活用力の育成の必要性について述べたことがあります。これからの子どもたちには是非とも付けたい力の一つです。次頁にその内容を紹介します。

#### 今、なぜ「活用力の育成」なのか

#### 巻頭言



#### 目次

#### 巻頭言

「今、なぜ『活用力の育成』  
なのか」 … 1

教育研究所研究部会報告 … 2

教育研究所所内研究報告 … 3

教員外部派遣研修報告 … 4

教育研究所 教育相談紹介 … 5

2年目研修を終えて … 6, 7

平成26年度事業報告 … 8, 9

教師の書棚 … 10

活用力の育成が叫ばれています。今、なぜ「活用力の育成」なのか、自分なりにまとめてみました。

まず地球規模で考えてみました。環境問題は世界共通の課題です。近年、「環境と開発は互いに反するものではなく共存し得るもの」としてとらえ、「環境破壊を行わない、持続可能な社会の構築は可能である」という考えが広がりつつあります。環境問題を解決するための教育の一つがESD(持続可能な社会づくりのための教育)です。ESDは、環境問題に限らず、貧困、人権、平和、開発など、現代社会の様々な課題を自分の問題として身近なところから取り組むことにより、それらの課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出すことで、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のことです。「自分の問題として身近なところから取り組む」とは、自分は何にに取り組むべきかを自ら決めて取り組んでいくということです。今ある課題を整理して自分が取り組むべき課題を立てる力、その課題解決に向かって取り組む力が求められています。

次に、日本の歴史から考えてみました。明治維新、日本は列強から国を守るために、アメリカやヨーロッパに学び取り組んできました。第2次世界大戦後はアメリカを見本・手本にして取り組んできました。現在、日本の国内総生産などは、世界のトップクラスに入り、すでに総体として見本や手本となる国や地域はありません。自ら取り組むべき課題を見つけて取り組んでいかなければならない状況にあります。

次は、企業が求めている力です。大学の先生から教えていただきました。ずばり、「自ら課題や問題を見つける力」と「みんなで取り組んでいく力、組織で動く力」です。

最後にこれからの社会についてです。これからは「知識基盤社会」となると言われています。「知識基盤社会」とは、単に知識が大切な社会というのではなさそうです。知識は簡単に手に入る時代です。たくさん知識をいかに活用するかが重要です。この「巻頭言」はこれまで私が聞きかじった知識や考え方をインターネットで調べて、より確かなものとした後、自分の考えに基づき、文章を構成しています。「知識基盤社会」では知識を活用する力が求められそうです。

以上のことからすると、基礎基本は言うまでもなく、活用力の育成がたいへん重要です。「基礎基本の定着のもとに活用力の育成」ではなく、「基礎基本も活用力も」です。基礎基本と活用力は車の両輪ととらえたものです。